

第2回麻生区区民会議（全体会議）

- 1 開催日時 平成22年10月1日（金）午後3時00分～午後4時45分
- 2 開催場所 麻生区役所第1会議室
- 3 出席者 [委員]
天野委員、飯塚委員、石井委員、植木委員、魚本委員、大高委員、梶委員、勝田委員、高瀬委員、竹市委員、武濤委員、田中委員、土井委員、福田委員、柳島委員、山崎委員
（欠席）金光委員、鴨志田委員、菅原委員、東川委員
[参与]
雨笠参与、伊藤参与、勝又参与
（欠席）尾作参与、花輪参与、山口参与、山崎参与、相原参与、吉田参与
[区役所]
磯野区長、渡辺副区長、間中区民サービス部長、檀市民税担当部長、月本保健福祉センター所長、木下保健福祉センター副所長、中山こども支援室長、黒田道路公園センター所長、原橋総務課長、入口地域振興課長
[事務局]
安生企画課長、阿部企画課担当係長
- 4 次 第
 - 1 開 会
 - 2 議 事
 - (1) 広報・広聴活動等について
 - (2) 第3期の調査審議課題等について
 - ア 課題の選定について
 - イ 専門部会の設置について
 - 3 その他
 - ア 川崎再生フロンティアプラン第3期実行計画素案策定資料の説明
 - 4 閉 会

【配布資料一覧】

「次第」

- 資料1 区民会議の広報広聴活動等について（企画部会提案）
 - 資料2 麻生区区民会議についての傍聴者アンケート（企画部会提案）
 - 資料3 審議課題一覧及び部会名称（企画部会提案）
 - 資料4-1 提案審議課題の分類別け
(川崎再生フロンティアプラン7つの基本政策による分類)
 - 資料4-2 提案審議課題内容及び関連する主な取組み内容
 - 資料4-3 提案審議課題に関連する主な事業（第2期実行計画抜粋）
 - 資料5 審議課題の選定経過と今後の予定
 - 資料6 川崎再生フロンティアプラン第3期実行計画素案策定説明資料
-
- 参考資料1 川崎再生フロンティアプランにおける政策体系
 - 参考資料2 麻生区区民会議第1回企画部会議事要旨
-
- 追加資料 所属専門部会希望調査票及び専門部会開催日程調査票

第2回麻生区区民会議

日 時 平成22年10月1日(金)

午後3時から

場 所 麻生区役所第1会議室

午後3時00分開会

1 開 会

武濤委員長 委員の皆様の中でまだお見えでない方もいらっしゃいますが、時間となりましたので、ただいまより、第2回麻生区区民会議を開催したいと思います。よろしくお願ひします。

先回は非常に暑い最中でしたが、やっと秋らしくなつてまいりました。それでは、まず最初に、委員の交代がございましたので、ご報告します。

川崎市美化活動実施麻生支部より団体推薦されておりました中島委員が体調不良のために退任されました。代わりまして、同会より高瀬委員が推薦され新任されましたことをご報告いたします。

恐れ入りますが、高瀬委員、自己紹介をお願いできますでしょうか。

高瀬委員 中島委員さんの代わりに私が推薦いただきまして、今回から皆さんと一緒にやってくることになりました。どうぞよろしくお願ひいたします。

武濤委員長 ありがとうございます。どうぞよろしくお願ひいたします。

それでは、次に、先回の区民会議に所用で欠席されて、今回が初めての出席になる委員の方々にも自己紹介をお願いしたいと思います。

それでは、梶委員からお願ひいたします。

梶委員 第1回目、所用がありまして、欠席をさせていただきました。今回、農業分野という形で第3期の区民会議の委員に委嘱されました、セレサ川崎農業協同組合に所属している梶と申します。どうぞよろしくお願ひいたします。2期に引き続き3期も継続します。一生懸命皆さんとともにやっていきたいと思ひますので、どうぞご指導よろしくお願ひしたいと思います。

武濤委員長 どうもありがとうございます。どうぞよろしくお願ひいたします。

2 議 事

武濤委員長 それでは、早速、議事に入りたいと思ひます。

まず、資料の確認を事務局にお願ひいたします。

事務局 配付資料は、一番上に本日の会議の次第がございまして、次に、資料1として「区民会議の広報広聴活動等について」、資料2として「麻生区区民会議についての傍聴者アンケート」、資料3として「審議課題一覧及び部会名称」、資料4は資料4-1から4-4までございまして、資料4-1が「提案審議課題の分類別け」、4-2が

「提案審議課題内容及び関連する主な取り組み内容」、4-3が「提案審議課題に関連する主な事業」、4-4が「麻生区区民会議審議課題選定基準等」でございます。資料5は「審議課題の選定経過と今後の予定」、資料6として「川崎再生フロンティアプラン第3期実行計画素案策定説明資料」でございます。参考資料1として「川崎再生フロンティアプランにおける政策体系」、参考資料2として「麻生区区民会議第1回企画部会議事要旨」でございます。その他、番号はついておりませんが、本日10月1日付けの高瀬委員のお名前が入りました区民会議委員の名簿と、タウンミーティングの開催案内のチラシをつけてございます。資料に不足等がございましたら、事務局までお申し出いただきたいと思っております。

それでは、次に、本日の議事について確認をさせていただきます。

次第をご覧ください。2の「議事」として、次の2点についてご審議をお願いいたします。

第1に「広報・広聴活動等について」、第2に「第3期の調査審議課題等について」となります。よろしく申し上げます。

(1) 広報・広聴活動等について

武濤委員長 どうもありがとうございました。

それでは、議事次第に沿って進めますが、まず、議事(1) 広報・広聴活動等についてです。区民会議の広報・広聴に関することについては、区民会議運営要綱第8条第4項第3号の規定により、企画部会の所管する事項とされております。これにつきまして、提案及び説明については、企画部会にお願いすることになります。今回の麻生区区民会議の企画部会は9月6日に第1回の部会が開催されました。その場で部会長に金光委員、副部会長に天野委員が選任されましたので、それをまずご報告させていただきます。

企画部会からの報告ですが、金光部会長が本日所用でご欠席のため、今回は企画部会を代表して、天野副部会長にご説明をお願いしたいと思います。

それでは、よろしく願いいたします。

天野副委員長 それでは、ご報告いたします。

資料1をご覧くださいと思います。企画部会副部会長に選任されました天野でございます。金光部会長に代わりご説明させていただきます。

まずは、企画部会の構成の確認ですが、委員長、副委員長、そして、立候補された金光委員、田中委員、土井委員の3名が加わりまして、現在、6名で構成されております。この後、専門部会の部会長も加わっていただきます。

先日の企画部会で部会長、副部会長を選任させていただきました。そして、金光部会長、私、天野が副部会長になりましたので、ご報告いたします。

次に、広報・広聴に関する件ですが、資料1の黒く網かけをした部分が提案内容でございます。区民会議運営要領には、企画部会ですべき事項が4つ挙げられていて、その4つのうちの1つに広報・広聴活動があります。皆様に区民会議を理解していただくためにさまざまな媒体を使って広報・広聴活動を展開していくということで、2期も同じ内容だったのですが、その5つの活動を挙げさせていただきます。

まず、1点目の「市政だよりに掲載」ということですが、市政だよりに、区民会議の開催日時や、審議経過内容についてお知らせを載せています。もう既に8月号、9月号には区民会議の記事が掲載されていて、皆様もご覧になったと思うのですが、11月号にも掲載予定です。それから、2点目の「区役所ホームページへの掲載」ですが、これは開催日時のお知らせはもちろんのこと、全体会議の議事録・専門部会の摘録や配布資料など、区民会議ではどんな審議、調査がされているかがわかるように掲載されています。第2期を例にとると、『エコカルテ』とか『第2期の報告書』などの成果物も、PDFファイルになってページに公開されています。この1点目と2点目は主に事務局に行ってもらいます。

次の「区民会議ニュースの発行」ですが、これは全体会議の開催後に発行し、町内会・自治会への回覧をお願いしているものです。網かけの下の「区民会議ニュース発行について」というところをご覧ください。区民会議ニュースは、原則、全体会議後に発行するのですが、今日の会議で専門部会が決まる予定ですので、第1回、2回の全体会議については一つにまとめた形で発行したいと思います。区民会議ニュース発行についての役割分担ですが、記事の作成・編集などは企画部会委員が行います。また、印刷・発送のための梱包についても企画部会の委員を中心に行いますが、もしも人手が足りなかった場合には、ほかの委員の方にもご協力をお願いすると思いますので、その際はよろしくお願いします。この区民会議ニュースは、町内会・自治会に配送して回覧をお願いするほか、市の施設、区役所、図書館、市民館、柿生連絡所、市民交流館やまゆり、社会福祉協議会の窓口にも置いていただき、皆さんが自由に取れるようにしています。

以上が広報活動ですが、前回の企画部会でも「区民会議そのものが実質区民によく知られていない」「区民に浸透させていくためには、もっとアピールしてその広報のあり方とともに手法を検討していく必要があるのではないか」「ホームページをもっと見やすいものにしたほうがいいのか」など、いろいろな意見が出されました。その方法などについては、今後企画部会で検討していき、具体的内容が出てきた段階で改めて提案していきたいと思えます。

次の4番目と5番目は広聴活動ですが、「区民会議への課題提案箱」と書いてあります。皆さんは区役所ロビーの行政端末の横に、区民会議のコーナーがあるのをご存じでしょうか。区民会議ニュースとか、そのほかいろいろなチラシが、一般のチラシと

は別のラックに入れられているのですね。その横に区民会議への提案箱という、ポストのような形のものが置かれています。そこに一般の方からいろいろな意見をいただいております。それを引き続き置くことになりました。また、区民会議の全体会議や専門部会を傍聴してくださった方には、ご意見を書いていただくためのアンケートを実施したいと思います。

アンケートの案ですが、次ページの資料2をご覧ください。第2期のアンケートと大体同じ内容なのですが、質問の2番(1)に「今回の開催を何で知りましたか」という項目を追加しました。これにより、広報活動の参考にしたいと思います。

この2点の広聴活動で区民の皆さんからご意見をいただき、まずは企画部会でその内容を検討し、それを全体会議や専門部会にまた提案していく、という形で区民会議の運営に反映していきたいと思います。

武濤委員長 天野副委員長、どうもありがとうございました。

広報・広聴活動等について、今、資料1と2によりご説明をいただいたわけですが、これについて審議をしていきたいと思います。

まず、所掌事項についての市政日より、区役所のホームページ、これはご説明いただいたとおり、事務局からいろいろ情報を提供していただいているということです。

次の区民会議ニュースについてですが、幾つかの項目について順に話し合っ進めていきますので、お気づきの点があれば発言してください。

まず、区民会議ニュースを原則、全体会議の後に発行することについて、例年どおりのやり方でよろしいでしょうか。

<委員、承認>

ありがとうございます。

次に、ニュースの記事作成は企画部会の委員が中心になって行いますが、発送作業等については、ほかの委員の方々にもお声をかけましてご協力をお願いしていくようなこともあろうかと思ひます。そのような形で進めたいと思ひますが、いかがでしょうか。よろしいでしょうか。

それから、広聴活動について、提案箱は、今、場所の説明などもありましたが、これを引き続き行っていくということ、それから、傍聴者のアンケートは新しい項目を追加した上で、昨年同様に実施していきたいということですが、いかがでしょうか。

ご意見等ございますでしょうか。

竹市委員 アンケートについてですが、傍聴者は会議の様子を聞きながら、終わったらすぐ提出していくというような形ですよね。今、たまたま国勢調査を行っていますが、調査の際は返信用の封筒が入っています。同じような形にすれば、傍聴者も家へ帰って、会議を振り返りながらゆっくり考えて意見を提出できるのではないかと思ひますが、いかがでしょうか。一般にばらまくわけではなく、直接会場に来た傍聴者にのみ

使うわけですから、大した数にはならないと思います。

武濤委員長 今、竹市委員から、傍聴者アンケートをその場で書いていただくだけではなくて、じっくり後で考えてご意見をいただけるような方法として、例えば返信用封筒を配布するなどの提出の仕方について考えてみてはどうだろうかということですが、委員の皆様、いかがでしょうか。

天野副委員長 ぜひ企画部会に持ち帰りたいと思います。メールでも返信用封筒でもゆっくり意見をいただけたら、本当にうれしいですね。

武濤委員長 それでは、いろいろな形で意見が伺える方法を検討するというので、企画部会にいったん持ち帰るということにしたいと思いますが、よろしいでしょうか。

<委員、承認>

ありがとうございます。

そのほか、提案箱、あるいはアンケートについてご意見等ございますでしょうか。

それでは、第3期区民会議の広報・広聴活動についてもこのような形で進めていきたいと思えます。区民の方々からいただいた意見等については、企画部会で検討し、必要に応じて専門部会や全体会議に報告し、必要なことについては審議しながら反映していきたいと思えます。

それでは、1つ目の議事、広報・広聴活動等についてですが、ご承認いただけますでしょうか。

<委員、承認>

ありがとうございます。

(2) 第3期の調査審議課題等について

ア 課題の選定について

イ 専門部会の設置について

武濤委員長 それでは続きまして、議事の2つ目「第3期の調査審議課題等について」に移らせていただきます。

こちらにつきましても、企画部会の天野副部長からご説明をお願いいたします。

天野副委員長 それでは、3期の審議課題について、企画部会からの提案内容をご説明いたします。

課題選定に当たり、企画部会の委員のほかに、魚本委員、菅原委員、竹市委員、東川委員、福田委員にもご参加いただき、審議しました。

まず最初に、本心配られたNo4-1から4-4までの資料に基づき、審議課題の取捨選択というか、絞り込みを行おうと思いました。それでまず、川崎再生フロンティアプランという川崎市の行政運営において一番基本となる、指針となっているようなプランをもとに分類するのが一番わかりやすいのではないかとということで、私たち

区民会議委員の提案した審議課題について、事務局が資料4-1のようにまとめてくれましたので、それについて意見交換をしました。

詳しくは、参考資料にある摘録を見ていただくといいのですが、区民会議で大事なことは、区民にいかに関心を持ってもらい、自主的・積極的に参加してもらうかということであると確認しました。そして、そのためには、地域の町会長にも興味を持ってもらい、町会単位で活動を推進していってもらうことも大事ではないか、町会・自治会との連携なくして活動は考えられない、自治会の協力を求めていく形にしたいという意見が提出されました。そこで、資料4-1にあります、網かけの35番「町内会・自治会との連携」という審議課題を追加することにしました。また、区民会議が独自の新しい事業だけを行うのではなくて、既存の活動に協力するという形があってもいいのではないかという意見も出まして、網かけの27番「『しんゆり・芸術のまち』の情報発信」という項目を追加しました。

その後も、審議していく中で実現性があつた方がいいのではないかなど意見が出ました。また、各委員はそれぞれさまざまな市民活動に携わっていて、それをもとに審議課題のテーマを提出している場合もありますが、個々の活動に縛られずに一区民会議委員として全体で何をやっていくのが一番いいかを考えるべきではないかという意見もあり、結論としては企画部会が審議課題をすべて絞り込むのではなくて、専門部会に分かれてから資料を参考にひとつひとつ掘り下げていったらどうかということで、まず、専門部会を幾つ設けるかという話に移りました。専門部会の設置数については、3つでは実働する人数が減ってしまうし、1つでは大き過ぎて本会議と同じになってしまうので、やはり第2期同様に2つが妥当であるとし、2つの専門部会を設けることが決まりました。

こうした話し合いを経て、資料4-1から、共通のキーワードのもと2つに分けた案が資料3です。フロンティアプランの7つの番号で言うと、4番目の「環境を守り、自然と調和したまちづくり」が、地域交流とは違うということで、そこだけを分けて、あとは全部、地域交流、文化というくくりで共通のキーワードになるのではないかと考え、このように分けさせていただいております。その他の32番、33番、34番、35番、「課題の担い手の発掘と育成」とか「町内会・自治会との連携」という課題は、どちらの部会にも必要なことであるので、両方の項目に入れておこうということでまとめました。これら2つに分けたグループをそれぞれ、『地域交流・文化部会』、『環境・緑化部会』という名称の専門部会として設定することを提案いたします。そして、第3期区民会議の全体テーマについては、各専門部会で取り組むテーマが決まった後にどのようにするかを改めて検討していくということになりました。

以上、企画部会での審議経過です。

事務局 今の天野副部会長からの報告を受け、事務局から少し補足説明させていただいた

と思います。

まず、参考資料1が、調査審議課題を何の分類で分けたかを示すものです。これは川崎市総合計画の中の「川崎再生フロンティアプランにおける政策体系」を表したもので、大きな矢印の下に、政策体系として7つの基本政策からこのフロンティアプランが成り立っていることを示しています。7つの基本政策は、一番左側の「安全で快適に暮らすまちづくり」から7つ目の「参加と協働による市民自治のまちづくり」までで、この分類を使って、各委員から提案があった審議課題を整理させていただきました。

資料4-1が、今回、事務局から企画部会に提出した資料です。先ほど申し上げた7つの基本政策の番号に基づきⅠ、Ⅱ、Ⅲ…と番号を振っており、Ⅴの分類については該当する提案がなかったので空欄になっております。また、皆様からの提案の中には、7つの政策の分類に当てはまらないというか、複数の分類にかかるものがあり、例えばⅡとⅢに、高齢者支援でも子育てでも、「地域のつながり（交流）」として一緒に進められるようなものは、どちらにもかかった形で捉えております。それから、右下に「その他」と書いてあるものは、政策体系の分類とは外れるものとして別にさせていただきます。

あと、資料下部の注意書きにあるとおり、記載内容は、各委員からの提案を要約したものでございます。次のページの資料4-2が皆様からご提案いただいた内容の詳細です。したがって、「詳細は資料5参照」と書いてありますが、これは企画部会に提出したときの資料番号が残ってしまっており、今回の会議では「資料4-2」の誤りですので訂正をお願いします。

それから、下の「*」は、第2期区民会議の取り組みや提言になったものを示しています。先ほど追加審議課題35については、企画部会で「町内会・自治会との連携」が必要という意見が上がり部会により追加したもののご説明がありました。また、審議課題27『「しんゆり・芸術のまち」の情報発信』については、企画部会の際に事務局から配布した資料では落としてしまっておりましたので、改めてこちらを追加した資料を本日ご用意いたしました。

それでは、資料4-2をご覧くださいと思います。表の一番左側の番号が先ほどの資料の審議課題番号と対になっており、その隣が提案された委員のお名前となっております。次の提案審議課題内容が皆様からいただいたテーマ内容です。例えば1番では、区内での防災についての提案事項が記されております。その右側に「関連する主な取り組み内容など」とありますが、これは主に市の事業を中心に、関連する主な取り組みなどを事務局で調べ、記載させていただいております。例えば1番では、川崎市地域防災計画・麻生区地域防災計画の中で医療救護活動体制を定めていることと、関係団体名を提示しています。一番右側の関連事業の欄は、資料4-3「審議課題に関連

する主な事業（第2期実行計画抜粋）」の中で該当する事業を当てたものです。例えば1番では、関連事業欄に「I-1～4」とございますが、これは資料4-3の表中、政策体系のI番に当たる主な事業1から6のうち、1から4までが今の防災に関係するものではないだろうかと判断し、表記したものです。まとめてひとつの一覧にして見られるのが一番わかりやすかったのですが、情報量が多かったので、2つの表に分けております。

このまま資料4-3の説明を続けると、各政策体系別の事業名称の右に、事業概略として、それぞれの事業でどんなことをやっているか、例えば体制の整備とか、向上を図るということを示し、さらに右側の欄に、どんなことをしていくか、取り組み内容の詳細を表しています。例えば、I-1の事業における取り組み内容は「災害時医療対策事業の実施」となります。

最後の資料4-4が、確認の意味で企画部会に提出した、審議課題選定基準と調査審議のパターンです。第3期区民会議はどんな形で審議が進められていくか、を1、2、3とパターンに分けて示したものです。

事務局からは以上でございます。

土井委員 企画委員の1人の土井です。この資料3に至った経緯を2点追加して補足させてもらいたいと思います。

どうしてこの資料のようなグループ分けとなったかということ、結論から言えば、まずは2つに分けてしまったということです。全部の審議課題は検討できないのは当然のこととして、そのほか、行政上の課題を我々がやる必要があるかどうかというものや、中には実現しそうなものもあります。今回、まず2つにグループ分けしてしまい、その上で、今後の専門部会の中で、どれをやるか、重点的に行うかを検討してもらったらどうかということでした。

もう1点目は、文化芸術の関係が地域の交流に入っていますが、これは既存の文化芸術活動へ協力していくスタンスでの記述として活動の中に入れており、それほど検討とか調査にパワーは要らないだろうということです。

武濤委員長 どうもありがとうございました。今、企画部会と事務局からご説明をいただいた企画部会の提案内容について審議を進めていきたいと思います。企画部会からの提案としては、「地域交流・文化部会」と「環境・緑化部会」の2つの専門部会を設置したいということです。また、「町内会・自治会との連携」など、それぞれの分類にまたがる課題については、2つの部会にそれぞれ共通の課題として加えたということです。また、個々の審議課題については、各専門部会の中で審議していったらどうか、全体テーマについては、各専門部会の審議の状況を見ながら、企画部会を中心に設定していく、と、このようなご提案ですが、皆さまのご意見等をお願いいたします。

石井委員 資料4-1で、「文化・芸術」と「市民活動」の分類が、下に「地域のつなが

り」という分類で一緒にくくられているのが、資料3では同様に掲載されていないのは、何か趣旨があったのでしょうか。

武濤委員長 今のお話は、資料4-1の右側の真ん中よりちょっと下のところに「地域のつながり（交流）再掲」と書いてある一方、この部分が資料3では、地域交流・文化部会の左下にはあるのですが、「文化・芸術」のところには入っていないのはどうしてか、というご質問でしょうか。

事務局 事務局で資料3を作成したときに、実際には資料4-1と同じように「地域のつながり（交流）」を右側にも再掲するべきでした。事務局で、落としてしまったのですが、本来的には資料3の地域交流・文化部会のVIとVIIのところにも再掲をするべきだったと思います。こちらは改めて訂正させていただければと思います。

武濤委員長 資料3を作成するときに落としていたので、再掲していくということですね。

柳島副委員長 私は、早くこの2つの専門部会について、どなたが何を専門にやるかを決めて、早く取り組んだ方がよろしいかと思えます。

それと、35番「町内会・自治会との連携」というのは、具体的にどういうことを指すのでしょうか。少し厳しい意見ですが、私も全町連の副会長をやっていますから、1期、2期の区民会議で、全然こういったことが我々全町連の方には聞こえてこなかったのですね。それで今度、自治会との連携というのをうたっているのですが、この連携というのはどういうふうに考えられているのですか。

事務局 参考資料2の2ページをお開きいただきたいのですが、一番下の「・」部分に、「区民会議が取り組む各調査審議課題についてはいずれも、課題の担い手の発掘と育成を意識する必要がある。特に市民へのアピールと参加促進のためには、町会・自治会の協力を求めていく。各専門部会での取り組みの際、『町会・自治会との連携』も考慮する」という経過から、審議課題35として追加したと企画部会の議事録に書かれています。後ほど、再度ご確認をお願いします。

天野副委員長 35番の審議課題が追加された経緯は、今の説明のとおりです。そして、2期の区民会議で町会・自治会とどのような連携をしたかについて、2期の委員としてお答えしたいと思います。「区民会議フォーラム」を、地域に出て、出前形式で行いました。また、区役所の会議室で区全体での「区民会議フォーラム」として、私たちがやってきた審議課題の経過報告と講演などを踏まえて行いました。そのフォーラムの内容については、皆さんにお配りしてある第2期区民会議報告書を見ていただくといいと思うのですが、その時のテーマが、自治会をテーマにブース展示などもしています。例えば、飯塚委員のいらっしゃる栗木では消防自動車を持っているとか、ごみ袋を新しい住民の方たちに配布しているとか、各自治会・町会のいろいろな事例発表の中から6つぐらい、特別活動をしていらっしゃる自治会・町会を選びまして、発表

する企画を行いました。各自治会にブース出展していただくに当たっては、区民会議の委員長・副委員長が各自治会と町連に説明に上がっているかと思います。また、NHKのプロデューサーに来ていただいて、「ご近所の底力」をどう自治会に生かすかという事例紹介などもしました。

柳島副委員長 麻生区にはいろいろな団体があります。例えば、防犯協会、防火協会、文化協会、そういう既存の団体でやっていることではなくて、未だ各団体も行ってないようなことを取り上げた方が、区民の関心と呼ぶのではないかと思うのです。1期、2期の区民会議の取り組みが全体として町連の方に反映されていない中、今度は本腰を入れて町連の協力を得て区民会議を進めていくのなら、既存の文化協会、防犯協会、防火協会、安全協議会、廃棄物減量指導員協議会、そういった団体の行っているもの以外で、もう少し高所に立ってかまえた方がよいのではないのでしょうか。要するに、麻生区協働推進事業の各予算についてもそれぞれが勉強し、我々の意見や要望も伝えていく、ということも、区民会議の役割だと私は思っています。だから、今まで既存のやっていることに手を出すのではなく、麻生区協働推進事業について勉強して調査審議することを私は提案したいと思います。

武濤委員長 これはこの場で情報を共有しまして、その上で各部会で諮っていきまじょうか。

柳島副委員長 各専門部会を設置して、具体的にどういうことをやるかが決まってから予算づけの問題も審議したらいいのではないのでしょうか。決まっていることや既にやっていることについて、せっかく各団体が一生懸命にやっているのに、区民会議がそこに行って口を出すのはやめたほうがいいということです。

武濤委員長 今のお話は、各部会で話をしながら、既にやっている活動などとは情報交換をして、効果的な、必要なことを選別して進めていくということですね。

柳島副委員長 情報交換はいいんです。せっかくやっているものを区民会議だという名前前で口出しするのはまずいのではないかということです。

竹市委員 全く同感でして、重複を避けるということですね。我々にしても、多くの人が、町会がどんなことをやっているのか、どんな課題を持っているのか、わからない部分が多いわけです。皆さん、どこかの町会に所属しているわけですから、町会のことをもっと知ってよいと思います。私も町会長ですが、町会自体がなかなか検討でき切れない部分がたくさんあります。そんな、これからの町会の課題なども把握しながら、それにはどういうふうに対処していったらいいのだろうかということが、柳島副委員長の言いたいところではないかと思います。

武濤委員長 貴重なご意見だと思います。これから審議を進めていく過程で、各団体や町会に所属されている方々の行っていることや情報も確認しながら進めていきたいと思っています。

そういったことを確認しながら、専門部会について、まず、大きく2つに分けていくということと各部会の名称についての提案、それから個々の審議課題については2つの部会でそれぞれ検討していくということ、これらの件について、皆様ご承認いただけますでしょうか。

<委員、承認>

ありがとうございます。

もう1つ、全体のテーマについては、それぞれの専門部会の審議状況を見ながら、企画部会が中心になり検討していくということです。こちらについてはいかがでしょうか。よろしいでしょうか。

<委員、承認>

ありがとうございます。それでは、議事の(2)第3期の調査審議課題等につきまして、ご承認いただきました。ありがとうございました。

早速、これで部会へと進んでいく形になると思います。

山崎委員 今回、審議課題の中に「大学生との連携」と書いてあるのですが、もっときちんと位置づけてほしいですね。来年度には映画大学もできますし、麻生区は芸術・文化のまちとしてもますます発展してゆきます。また、福祉の分野では田園調布学園大学もあります。そうしたことから、学生の力を我々はもっと活用していかなくてはいけないと思うのですね。この学生の協力について、何事においても遅れているのは麻生区の悪いところではないかと思うのです。我々が一生懸命やってもわからないことを解決できるくらい、大学生が考える力は非常に大きいものですから、それを我々の力にしていく、そういうふうと考えていただければと思います。

石井委員 その件では、オリーブまつりのパンフレットをお配りしていただきたいと思うのですが、今回、区民まつりと昭和音楽大学の学園祭としんゆり映画祭、あとアートパークスを使った大学の演奏会等がございます。それに専修大学の学生さんがフードフェスというのを企画しています。この10月の間にこれらのイベントが行われまして、大学生がこのPRを行い、イベントにもいろいろ参加しています。こういう大学生と協働で進める形を今、NPOのしんゆり・芸術のまちづくりとしんゆり映画祭、まちづくり財団などが協力し始めて成果が出つつありますので、交流、地域のつながりという課題分類が横一線になってもいいのかなと思います。また、昨年、kirara@アートしんゆりでも、千代ヶ丘小学校の児童と一緒に、点灯式・クリスマスイベントに参加されています。今後、もっと一緒に交流できるような場ができればいいなと思っております。

武濤委員長 どうもありがとうございました。そういった形で、大学生との連携についてもすでに始まったり、行われつつあるのですが、今後も若者を含めた活動も意識しながら、広報・広聴活動、審議課題の検討、あるいは実際の活動を進めていきたいと

思います。

それでは、各専門部会の設置につきましても、今ご承認いただけましたので、次に今後の予定等について、事務局からご説明いただけますでしょうか。

事務局 資料5をご覧ください。審議課題の選定経過と今後の予定についてです。一番上のところ、審議課題意向調査の実施ということで、すでに課題を抽出しました。8月4日に第1回全体会議で、提案審議課題の意見発表等を行っていただきました。続いて9月6日に企画部会で、まず各課題の関連性を整理してカテゴリー化を実施し、それから「地域交流・文化部会」、「環境・緑化部会」という名称で部会を設置するという審議課題・専門部会（案）を策定しました。本日10月1日が第2回全体会議ということで、審議課題・専門部会の決定のため、今検討されたところです。今後、所属する専門部会等の調整についてですが、委員の皆様には、2つの専門部会のどちらを希望されるかを10月12日頃までに決めていただき、事務局へ調査票をご提出いただければと思います。所属する専門部会の希望調査と日程調査について皆様のご希望を聞いた上で、部会と日程について、事務局から決定通知を送らせていただきたいと思います。第1回専門部会では、専門部会の正副部会長を決めていただいてから、カテゴリー化された課題の中から優先順位をつけ、課題の絞り込みを実施していただきたいと思います。また、それに続いて審議課題の具体的な取り組み方法の検討に入っていただければと考えております。

その後は、専門部会を順次開催していただきまして、来年の2月上旬に第3回の全体会議の開催ができればと考えております。全体会議の前には、専門部会の部会長も参加していただき、企画部会を再度開催していきたいと考えております。

事務局からは以上でございます。

武濤委員長 ありがとうございます。

それでは、今説明のありました今後の予定についてですが、ご意見あるいはご質問等ございましたらお願いしたいと思います。

大高委員 質問なのですが、専門部会の希望について、「どちらでもよい」ではなくて「両方入りたい」ということは可能でしょうか。それとも、2つの専門部会は同じ日に開催されるということでしょうか。私個人としては、環境・緑化部会に、所属する大学との関連では地域とのつながりということで、地域交流・文化部会に所属したいのですが、いかがでしょうか。

事務局 前向きなご発言に対して事務局からこう言うのもなんですが、基本的には1つにいただきたいと思いますと考えております。各部会の活動が開始され、活動日がたて込んでくると、両方に所属してはかなり大変ではないかと思えます。

柳島副委員長 何も調査票を集めなくても、今日皆さん集まっているのだから、この場で希望を聞いたらいいいのではないのでしょうか。希望を聞いて、ある程度各委員が所属す

る部会についてかためてしまうことができます。日程についても、地域交流・文化部会と環境・緑化部会とは違う日にやるのでしょうから、調査票に「○」をつけて決めるよりも、大体この場で決めてしまった方が、事務局も調整するのに楽でしょう。

事務局 企画部会の提案としては、この場で出しにくいでしょうから、このような調査票の形を取りました。今日決めていただけるということについては、皆様でお話しいただければと思います。

武濤委員長 今、ここにご出席の方々については、この場で挙手していただく等で決めてしまい、ご欠席の方についてはこの調査票を使って調整していく、というご意見が出ておりますけれども、いかがでしょうか。ほとんど皆さん、希望する部会については決めていらっしゃるかと思います。日程調整は、すぐ調整がつくかどうかはわかりませんが、それでもよろしいですか。

飯塚委員 この場で改めて調整してしまわなくても、各委員が調査票を出して事務局で集計してもらい、それで偏ったら改めて調整すればよいと思います。専門部会の希望についても、「どちらでもよい」という人もいると思います。

武濤委員長 どちらにしても、日程調整をしなければいけませんので、今日ここで決められる方については、調査票を書いて提出いただき、あとで事務局でまとめていただく形にしましょうか。

柳島副委員長 日程調整については、後からではわからないのではないかと。地域交流・文化部会と環境・緑化部会のそれぞれ別々に日程の調整を行うのだから、委員が集まって、いつやろうかというのを決めてしまえば一番いいんだよね。

飯塚委員 四角四面で調整すると、例えば何かの都合で急に部会に出席できなくなってしまうとき、困るわけですよ。区民会議のほかにも、いろいろな重要な仕事があるのですから。

武濤委員長 いろいろ皆さんお忙しい中、早くに次のステップに進みたいとも思いますが、これだけの人数で調整が必要な上、本日は欠席者もいらっしゃいますので、まずは、すぐに調査票を提出いただいて、それで各専門部会の所属と日程の調整を事務局にはできるだけ早目にしていただき、ご連絡をいただくという形にさせていただきたいと思います。そのような形でご了解いただけますでしょうか。

<委員、承認>

よろしくをお願いします。

事務局 専門部会の開催日は、10月26日から11月12日の間に1回目を開催できればと考えております。出席人数の多い日を選びまして、専門部会の開催通知を事務局からお送りさせていただきます。各専門部会では最初に正副部会長を決めて、テーマの絞り込み等をできればと考えております。

柳島副委員長 専門部会は、日程をきちんと決めて、全員出られるようにしなきゃいけない

いと思います。専門部会で、実際に区民会議の取り組みとして何をやるかを決めるの
でしょう。多数決などで日程調整をしたら、欠席者が出るじゃないですか。そうする
と、自分で提案した審議課題を主張する機会を失ってしまうじゃないですか。だから、
私は今日この場で所属する部会をかためて、各部会ごとに、いつごろが都合がい
いかの日程調整をすればよいと思うのですよ。あとは当日、正副部会長を決めればい
いことですね。その方がすぐに期日が決まるし、全員出席してもらった方がいいんじ
ゃないですか。

事務局 事務局としては、今日のご欠席の方もいらっしゃいますし、いずれにしても、全
員の日程を調整することは難しいのかなという心配がございます。皆様全員ご出席の
日を専門部会の日とすることが望ましいとは思いますが、果たして皆様のご都合の
よい日が全員一緒になるのか、それは不安がございます。

柳島副委員長 私はこの区民会議だけでなく他にもいろいろ委員をやっているから、当
日欠席して適当に決められたのでは、自分の主張も全然話す機会がなくて困ります。

武濤委員長 今のお話は、それぞれの2つの専門部会は、10月26日から11月12日
の中で皆さんの日程の合う、できれば全員が望ましいけれども、一番合うところに持
っていききたいということですよ。

柳島副委員長 私が言うのは、一番最初の専門部会は全員出席が望ましいということなん
ですよ。というのは、皆さんそれぞれ区民会議で取り上げたいテーマについて、当日
欠席した中で多数決で決められてしまうと、自分が主張したいことが全然議題に上ら
なくなってしまうから、第1回だけは全員が集まって、それぞれの専門部会を開催し
てもらわないといけないと思うのです。

山崎委員 今いろいろご意見が出ているのですが、地域交流・文化部会と環境・緑化部会
と2つの部会があるわけですよ。どちらかに皆さんは出なきゃいけないわけですか
ら、自分が調査票の記入欄に「○」をつけたらそれに従っていただければよいと思
います。今、柳島委員からお話があったように、専門部会の1回目について日程が決ま
ったとしても、もし今のような問題があるといけませんので、実際は地域交流・文化
部会でこれだけのものをやるのですから大変かもしれませんが、自分が申し出たもの
が落とされるということはありませんので、欠席者の出した審議課題も含め、ぜひと
も皆さんで何とか考えてまとめていただきたいと思います。多分、このことは企画部
会で決めたと思うので、これ以上やっても逆に難しくなると思うので、提出した調査
票の中で事務局に考えていただければいいような気がします。

武濤委員長 そうですね。この10月26日から11月12日の間ですね。

天野副委員長 柳島委員のおっしゃることはとてもよくわかります。そして、落とされる
ことはない山崎委員はおっしゃったけど、実際に落とされることはありますよね。
全員が出席して、それぞれの提出した課題をアピールし意見交換した上で納得して次

の活動に行きたい、ともちろん思いますよね。そこで、提案ですが、この調査票の書き方だと、「都合の悪い日に『×』をつけてください」とすると、なるべくこの日は避けたいというものも「×」を書いてしまいますよね。なるべく避けたいけれど、皆さんがこの日しか合わないのだったら、私はどうにか融通しますという意味の「△」を欄に書いていただき、なるべく皆さんが「×」をたくさんつけないようにすればよいのではないのでしょうか。例えば午後について、2時から4時と書いてあっても、4時から6時だったら大丈夫であるとか、きめ細かく書いて提出すれば、なるべく皆の出られる日というのを選べると思うのですね。夜も6時から8時となっただけでも、「7時だったら参加可能」ということなら、その日は開催を7時にすればいいので、事務局が調整しやすいことを思いながら各自が記入したらいかがでしょうか。

武濤委員長 今、非常に建設的なご意見をいただきましたけれども、いかがですか。

飯塚委員 全員が出られるということは、なかなかあり得ないと思います。ですから、その辺りは、どうしても発言したいというなら、事前に「自分の意見はこうだ」ということを事務局などに伝えておけばいいんですよ。というのは、どなただって自分の用事というのはいっぱいありますし、どうしても他の会議に出なきゃいけないという場面もあります。ですから、全部出ますなんて言い切れません。全員の参加は難しいと思いますよ。

武濤委員長 お忙しい皆様のことですから、かなり厳しいと思います。今おっしゃっていただいたように、ご自身のスケジュールについて、「×」だけではなくて、調整可能といったことも含めて提出していただいた上で、一番可能性の高いところを、この期間中から決めていくということにさせていただきたいと思います。

皆さん、この調査票を提出いただくのは大丈夫ですね。よろしいですか。

<委員、承認>

では、本日予定しておりました議事についてはこれで終了いたしますが、ほかにご提案その他ございましたらお願いします。

天野副委員長 1つ提案があります。委員間のメールアドレスを公開してはどうかという提案です。事務局からの連絡や資料送付は、例えばこの会議の開催通知もそうですが、メール、ファックス、郵送で今まで行ってきました。メールアドレスがある方に関しては、事務局から資料などが送られてきたときに、今はあて先のアドレスが隠された形となっています。これを公開してもらえれば、今回の通知は全員に送られてきたものなのか、部会長と副部会長だけの相談のものなのか、などがわかる形になりますし、また、逆に返信する際も、全員返信が可能となるので、「私はこうです」と伝える場合や、ちょっと意見交換したい場合、ほかの情報を追加する場合、「これ、間違いじゃないですか」と問う場合など、スムーズにいくと思うのですね。ただ、皆さんのメールアドレスはあくまで個人と事務局との連絡用として事前に教えて

いただいたものであるから、事務局からは皆さんの承諾がないとアドレスの交換はできない、という話もいただきました。企画部会では、「全員の一覧メールを公開してください」と提案し皆さんの了解を得たことで、連絡網のメモをいただきました。今回、そのような形で公開するというのはいかがでしょうか。ご意見をいただけたらと思います。

武濤委員長 いかがでしょうか。公開というのは、お互いの中で知るようにするということですか。

天野副委員長 区民会議委員の中だけで交換するということです。

武濤委員長 この委員の間でお互いに知るようにするということですね。

委員のメールアドレスを事前知っておけば、これは全員に宛てたもので、これはあの人たちに宛てたものと判別することができるためにも、皆さんがメールアドレスを知っているようにする、ということによろしいですね。

田中委員 私は異存ないので、反対の方がいらっしゃったら発言していただければと思います。

天野副委員長 メールアドレスをお持ちの方について、反対の方がいなければ、そういう形で進めていけたらと思います。そして、区民会議に限らず、例えば自分が活動している団体についてこれはぜひ皆さんにお知らせしたいという内容を送ることもできます。2期の時は、情報発信もそれぞれ自由で、それをどう受けるかは個人個人の自由という形でした。今回はそこまでの提案ではないのですが、3期もアドレス公開にした方が皆さんのいろいろな情報交換や意思疎通ができるのではないかと思います、提案させてもらいました。

武濤委員長 よろしいでしょうか。お持ちの皆様につきましてはご了解いただけたと考え、これからの話し合い等に生かしていきたいと思います。

山崎委員 今日の第2回区民会議の資料については、事前に1部送られてきて、我々は目を通して来ております。無駄というか、もったいないと先ほども柳島副委員長と話したのですが、この資料について、皆さんに先に配っていただいたものを当日持ってきてもらう、という形にすれば、事前に資料を送付して当日も用意するという二度手間がかからないと思います。また、紙も無駄にならずに済みます。さらに我々も事前に資料によく目を通して頂くことができます。無駄のないようにするには、そういうことも1つ必要だと思います。

柳島副委員長 実は午前中、私は電話で事務局へ「今日の会議には何の書類を持って出かけていったらいいんですか」と問い合わせたのです。というのは、私の手元には区民会議の書類がたくさん溜まっているんですよ。それで、今日心配になって、何を持っていったらいいか問い合わせたら、そのまま来てもらえばいいとのことでした。今日のこのような資料なんか前回と同じで、会議のたびに同じものが含まれているんです

よね。本当にもったいないです。だから、いったん配布したら、その資料を基礎にして進めていくようにした方がいいと思います。その都度、新しい資料を作るのは事務局も大変だし、費用ももったいないですよね。「今日のこの資料が一番基礎的なものとなるから家へ持って帰って、次回はこの資料を持っていらっしやい」という方がいいのではないのでしょうか。

事務局 今いただいたのは、企画部会の際に配布した、課題内容及び関連する主な取り組み内容とか、市の事業でどんなことをやっているという資料について、また次の会議で同じことをコピーして出すのはもったいない、ということかと思えます。できれば事務局としても、各専門部会の開催時、開催通知の中に『前回お渡しした区民会議の資料4-1から4-4までの資料をお持ちください』と書かせていただき、委員の皆様を持参いただければ助かりますので、よろしくお願ひします。ただ、事前にお配りした次第や資料について、皆さんに送付した後に、最初にこれをやろうと予定していたものから実はもう1つ議題が増えてしまったとか、あるいは内容変更したとか、そういう場合もございますので、その場合には、申し訳ございませんが、改めて当日、資料を直した形で配布させていただければと思うのですが、よろしいでしょうか。

武濤委員長 では、そのような形でよろしくお願ひいたします。

3 その他

ア 川崎再生フロンティア第3期実行計画素案策定資料の説明

武濤委員長 それでは、次の次第の3、その他に移りたいと思います。

川崎再生フロンティアプラン第3期実行計画素案策定資料につきまして、事務局から説明をお願いしたいと思います。

事務局 資料6をご覧ください。表題は、『川崎市では、新総合計画「川崎再生フロンティアプラン」第3期実行計画（2011年度～2013年度）の策定を進めています。』というものです。既に事前に各団体が集まったときに説明しているところがございますので、重複するかと思いますが、一部素案の策定資料の抜粋も用意させていただきましたので、そちらに沿ってご説明できればと思っております。

まず、1の「新総合計画『川崎再生フロンティアプラン』とは」というところですが、下の枠囲みの図を見ていただければと思います。新総合計画「川崎再生フロンティアプラン」の構成を表しています。まず、おおよそ10年の基本構想がありまして、これは本市が進めるまちづくりの基本方針を定めたものです。その構想の下に矢印が伸びた先の、3年ごとの実行計画については、基本構想に基づき、施策の具体的な取り組み内容及び目標を明示したものです。既に第1期、第2期と実行計画は進んでおりまして、第2期の実行計画が、表の一番下の方にあるとおり、2008年（平成20年度）から2010年（平成22年度）、今年が最終年となっております。そ

して、第3期の実行計画が、来年から3年間始まるということでございます。第3期の実行計画の策定を今年度やっているというものでございます。

次に、2の「市民の参加・協働と職員の主体的な参画による計画策定」ですが、市民の参加ということで、7区におけるタウンミーティングが実施されます。スケジュールを見ていただくと、10月上旬、5日ごろに正式に素案の公表になる予定でございまして、10月8日から11月8日までの1カ月間、素案に対して広く市民の皆様からご意見を聞くパブリックコメントを実施する予定です。タウンミーティングについては、10月15日（金）に麻生区市民館で市長が説明いたします。これは夜18時30分から開始して説明いたしますので、ぜひいらしていただければと思っております。これらの方法でご意見をいただいて、平成23年3月に実行計画の策定と公表をしていく予定でございます。タウンミーティングのチラシにつきましては、先ほど資料説明でもご紹介したとおり、資料の一番下につけてございますので、後ほど見ていただければと思います。

続いて、右側の第3期実行計画（区計画）ですが、4つの主要課題があります。この主要課題については、これですべての事業ということではなくて、主なものとして4つを取り上げたものでございます。1つ目が「芸術・文化のまちづくりの推進」、2つ目が「スポーツのまち麻生の推進」、3つ目が「コミュニティづくりの推進」、4つ目が「高齢者・子どもが安心して暮らせるまちづくりの推進」ということで、右側の欄に説明書きがございまして、裏をめくっていただきますと、「麻生区」第3期実行計画主要課題ということで、先ほど4つ挙げましたものをイメージで追っかけた資料でございまして、イメージを見ながら説明を聞いていただければと思います。

まず1つ目が「芸術・文化のまちづくりの推進」ということで、「NPO法人しんゆり・芸術のまちづくり」などと協働した取り組みを進め、芸術関連組織の行う活動を支援して芸術のまちづくりを推進するとともに、「芸術のまち」を中心とした地域情報の収集・発信を行います。また、地域文化団体などと連携して伝統・伝承文化技術に関連する事業を実施し、区内及び近隣地域に区特有の伝統・伝承文化の浸透を図ります。

2つ目が「スポーツのまち麻生の推進」ということで、「川崎フロンターレ麻生グラウンド」をはじめとした区内のさまざまなスポーツ資源を活用した連携事業を実施するとともに、麻生スポーツセンターを核にしたスポーツ関連組織で構成される「麻生区スポーツ推進組織」の設置・運営支援などを通じて、魅力あるスポーツづくりを推進します。また、ニュースポーツやシニアスポーツの普及・啓発やスポーツフェスティバルへの支援などを通じ、区民の健康と体力の向上などを図ってまいります。

3つ目は「コミュニティづくりの推進」ということで、地域コミュニティの核となる町内会・自治会活動のさまざまな支援を通じ、地域活性化に向けた取り組みを推進

します。あわせて、「麻生市民交流館やまゆり」を区における市民活動支援の拠点の1つとして整備し、市民活動に対する中間支援機能の維持を図るとともに、市民組織による運営を支援します。また、第3期麻生福祉計画の中核事業に位置づけられている区内の保健福祉エリアごとに地域福祉ネットワークを発足し、地域福祉の推進を図ります。さらに、地域課題解決に向けた取り組みを行う市民団体などを支援する地域課題解決提案事業を新設します。

最後の4つ目が「高齢者・子どもが安心して暮らせるまちづくりの推進」ということですが、(1)安全・安心まちづくり事業は、区民が安全で安心して暮らすことができるように、区民に対し身近な地域情報を迅速かつ正確に発信できる体制を構築するとともに、あわせて、警察、消防、地域と連携した取り組みを推進する、とイメージで追ったものです。(2)高齢者見守りネットワーク事業は、今後、高齢化率の上昇やひとり暮らしの高齢者の増加が見込まれる中、何かの原因で生活維持が困難になっている高齢者を発見、支援する安心見守りネットを事業者や関係者の協力のもとで行い、高齢者の見守りを推進するというものです。(3)子育て支援・企画事業は、当面増加が見込まれている子育て世代の転入に伴う子育て支援について、こども支援室が中心となり、区内子ども関連情報の収集整理などを行い、関連機関と連携した相談窓口の運営を実施します。また、(4)こども関連大学連携事業は、公学連携ネットワークや新設される日本映画大学、明治大学黒川新農場など、地域資源とともに連携した事業を通じ、子育て支援を推進するものです。

次のページにあって、こちらは、区の抜粋版です。冒頭に「フロンティアプラン第3期実行計画素案策定資料(抜粋)」とありますが、これは策定資料なので、実際にタウンミーティングの際には、素案の中に明示できるかと思います。まず、人口が4月1日現在で16万8178名とありまして、9月1日現在が16万9028人ですので、5カ月間に850人増えております。また、同様に世帯については489世帯既に増えております。

区の概況と特性の中では、3つめの「●」に、「新百合ヶ丘周辺地区には」と始まっていますが、中段に、2012年、すなわち平成24年には古沢地区に総合病院の新設が予定されるとあり、これは地下2階地上6階で377床の、外来予想としても1日1000人になると伺っている新しい総合病院が、新百合ヶ丘にできるということでございます。次の「●」には、麻生区が緑が豊かで、特に農地、山林が約4分の1を占めているとありますが、黒川地区には明治大学の黒川新農場が開場されるということに記載させていただきました。最後の「●」に、4大学との連携のほか、来年春に開校する日本映画大学が地域からもたいへん期待されているということで記載しております。

次に区の現状と主な課題を、先ほど申し上げた4つのテーマに基づいて掲載してい

ます。ページが概要版なので飛ぶのですが、264ページまで、それぞれの課題に対応した現状を書かせていただいております。下のグラフは麻生区の人口の推移と将来人口についてですが、2035年、25年後が人口のピークを迎えるということになります。ただ、今後2035年までには、0歳から14歳までの人口が1900人減るという見込みでございまして、65歳以上の方は2万1200人増えるということです。グラフには細かい数字までなかったもので、読み上げさせていただきました。

次ページ上のグラフを見ていただきますと、麻生区の中でも人口比率構成が2010年6月現在でも違ってきていることがわかります。麻生区全体では高齢者人口は18.1%なのですが、はるひ野地区については、左側部分14歳までの子どもの人口が多くなっています。逆に白山地域では、右側の白い部分が多くなっており、区平均が18.1%であるのに対して、28%が高齢者人口になっていると示されております。

その下の主要な取り組みというのは、先ほど私から説明させていただいたものと同じものです。

267ページをお開きください。参加と協働の取り組みについてお示したもので、区民会議のこれまでの審議状況をこちらの区計画の中にも掲載させていただくところです。これまでの審議経過、区民会議の審議を踏まえた主な取り組み、それから、市民提案による協働の取り組みということで、今までも区民提案による提案型事業を進めさせていただいたところがございます。

268ページから271ページまでが、局の事業と区の事業のうち、区という枠組みで囲んだものを掲載しております。例えば「安全で快適に暮らすまちづくり」の中の「I-2 災害や危機に備える」の行には、その事業として「消防署の適正配置・改築事業」がございしますが、その右側を見ていただきますと、「仮称栗木出張所の新設に向けた取り組み」と「柿生出張所の改築」が計画期間中にあるということがわかります。実際の策定段階では、もう少し具体的に細かく、これ以上に項目がたくさん出てくるかと思いますが、まだ素案の段階では、すべての事業が出そろわず、頭出しをさせていただくような形になろうかと思っております。

武濤委員長 どうもありがとうございました。フロンティアプランの第3期実行計画素案の、特に麻生区の部分についてご説明をいただきました。ご質問等ある方がいらっしゃればお願いいたします。タウンミーティングが10月15日に行われるということでございます。よろしいでしょうか。

それでは、川崎再生フロンティアプラン第3期実行計画素案についての説明を終了いたします。

本日はお忙しい中、参与の方にもご出席いただいております。区民会議へのご助言や今日のご感想などお願いできればと思うのですが、勝又参与、お願いできますで

しょうか。

勝又参与 お疲れさまです。勝又光江といいます。途中から入ってきたものですから、前半がちょっとよくわからないのですが、今お話がありましたように、タウンミーティングが10月15日にあります。皆さんが、前回と今回で出されている審議課題の提案について、この中身についてもタウンミーティングの中で、ここはぜひ力を入れてほしいというようなことも含めて提案をされていくといいのかなと思いますので、よろしく願いいたします。

武濤委員長 どうもありがとうございました。今後とも区民会議へのご助言等、よろしく願いいたします。

それでは、区長からごあいさつをいただけますでしょうか。

区長 大変長時間にわたりご審議をいただきまして、ありがとうございます。今日は最初の議題で、また時間延長になってしまうかな、と心配していたのですが、非常に順調に進むことができました。武濤委員長も大変ご苦労さまでした。委員の皆様もご協力ありがとうございました。

今日、議論になりました区民会議の審議課題を決めるというのは、麻生区に限らず、どの区の区民会議でも非常に苦慮しています。委員の皆様はいろいろなテーマを持って提出していただけるのですが、それをいかにまとめるかというのが各区で非常に工夫するところでして、麻生区の場合は出された課題を企画部会でまとめていただいています。最終的には専門部会でその課題の優先付けをしてみたり、あるいは同じような議題を少しまとめてやってみたり、いろいろな意見が出ると思います。また、今回、できるだけ重複を避けていこうではないかというようなご意見もありましたので、そんなことも踏まえて、専門部会で具体的に取り組む審議課題の選択、そして、その審議課題をいかに審議していくかの方法、企画部会でも何点かその方法が出されておりましたが、その辺りをまとめていただくことになろうかと思えます。いずれにしても、麻生区の地域課題を行政のみならず、皆さん方が中心になって、解決に向けてご尽力をいただくということで、大変期待をしております。どうぞよろしく願い申し上げまして、あいさつとさせていただきます。

4 閉 会

武濤委員長 どうもありがとうございました。

それでは、これで、第2回目の区民会議を終了いたします。大変長い時間にわたりましたけれども、ご審議いただきまして、ありがとうございました。どうもお疲れさまでした。

午後4時45分閉会